

眠れるウォーターフロント

中川運河



「中川運河」 (名古屋港から名古屋駅方面を望む)

中川運河の沿革

中川運河の前身は中川という自然河川で、この川は庄内村大字名塚（現名古屋市西区）から流出して熱田湾に注いでおり、中野村（現野立橋付近）より下流を中川、上流を笈瀬川（旧御伊勢川）と呼んでいました。

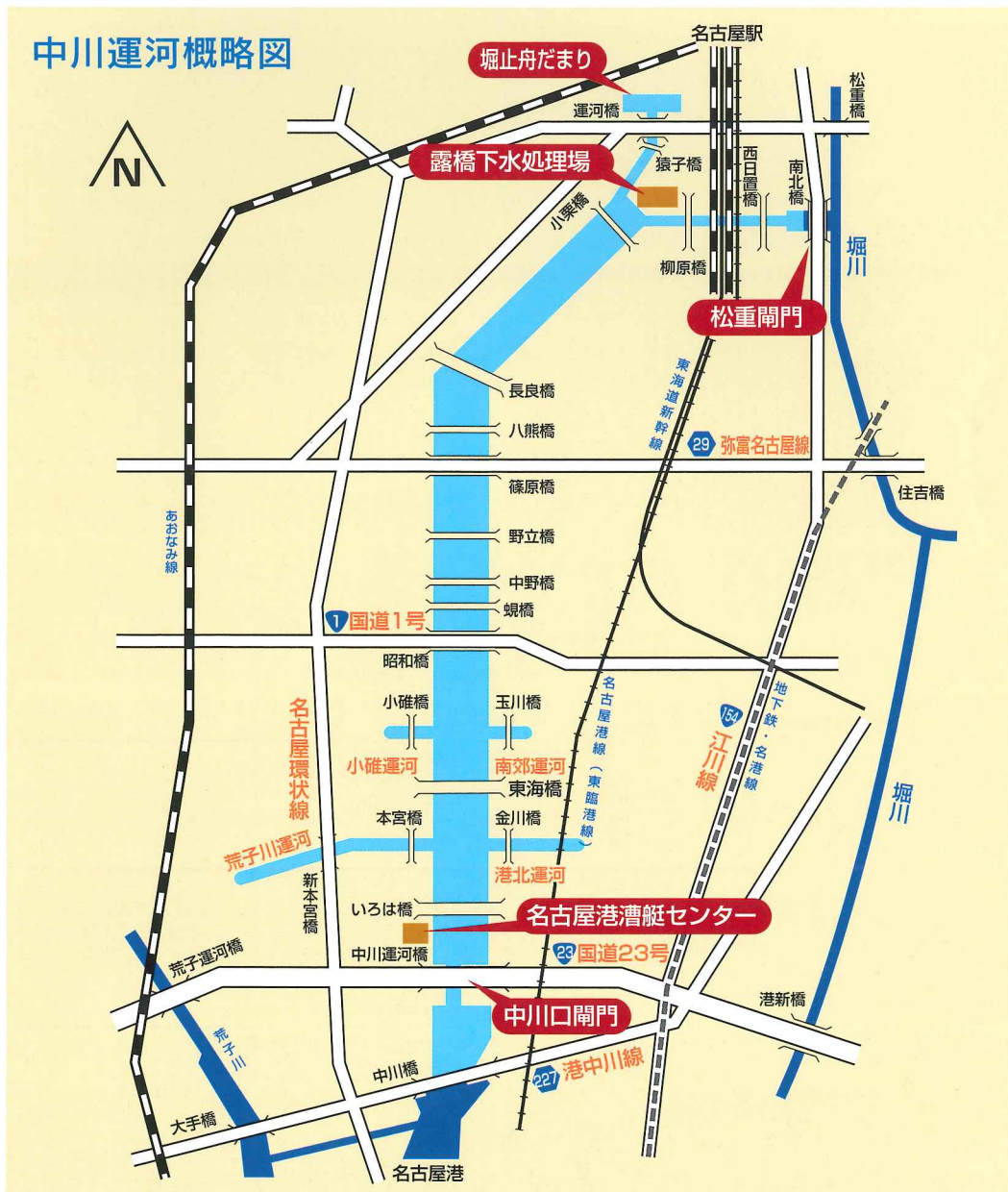
時代の変化とともに名古屋も産業都市に変わり、工場地における原料、材料の供給、生産品の搬出などのための港湾および鉄道と商工業地との連携をするために、中川運河は名古屋港と名古屋駅とを連絡する閘門式運河として名古屋市によって整備されました。

大正15年に着手した事業の特徴は、単に中川を開削するだけでなく、開削した土砂により、物揚場、倉庫敷、道路、建築敷地の区域を同時に整備しました。昭和5年に幹線と北支線が供用開始され、昭和7年に東支線の開通により運河全線が整備され、市南西部の発展の拠点となりました。

以後、中川運河は、一大輸送幹線としての役割を果たすとともに、市中心部の排水路として市民生活を支えることになりました。

しかし、昭和40年代に入ると、道路網の充実や貨物のコンテナ化などの港湾荷役形態の変化等により、水運利用は急激に減少しました。

一方、名古屋港の海風が中川運河を渡り都心部の“ヒートアイランド化”を緩和していると言われています。また、この運河の河幅は64m~91mもあることから火災時には対岸への延焼防止効果も期待されます。

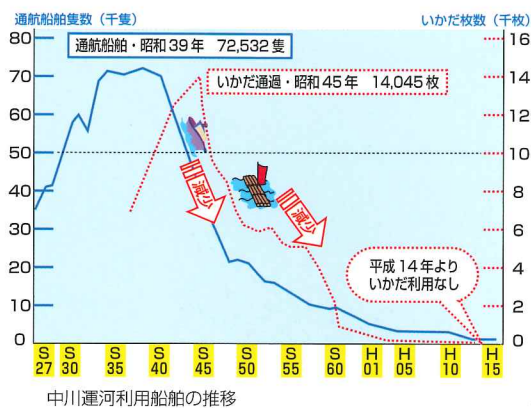


経緯

- 1926年(大正15年) 中川運河開削工事起工式
 - 1930年(昭和5年) 運河の幹線及び北支線に通水
 - 1932年(昭和7年) 運河東支線全線の供用開始
 - 1933年(昭和8年) 露橋下水処理場が運転開始
 - 1937年(昭和12年) 松重ポンプ所の運転開始
 - 1952年(昭和27年) 中川口ポンプ所完成
 - 1963年(昭和38年) 中川口第二閘門完成
 - 1968年(昭和43年) 通航船舶の減少により、松重閘門を閉鎖
 - 1976年(昭和51年) 松重閘門の使用を廃止
 - 1983年(昭和58年) 第一回名古屋レガッタ開催
 - 1986年(昭和61年) 松重閘門が名古屋市の有形文化財に指定
 - 1991年(平成3年) 中川口の第一閘門の使用を廃止
 - 1993年(平成5年) 名古屋港漕艇センター設立
 - 1997年(平成9年) 中川口地区港湾環境整備事業着手
- 中川運河整備基本計画を公表(名古屋市・名古屋港管理組合)

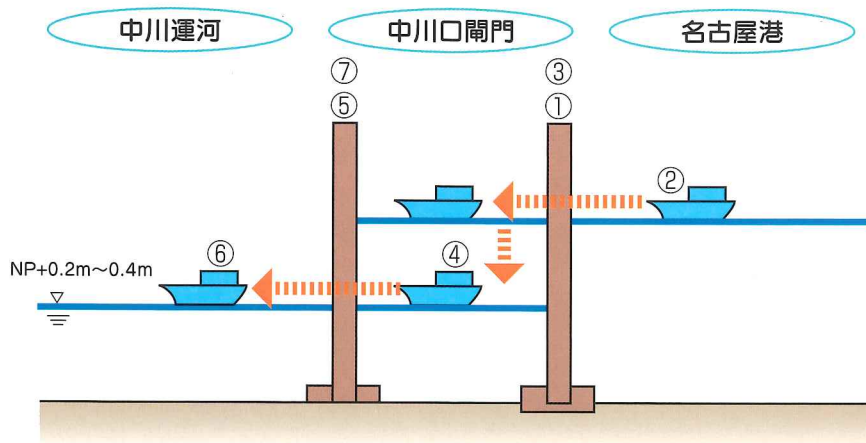
設備概要

- 運河の形式 閘門式、開削運河(パナマ運河と同じ方式です)
- 延長 約8,210m(幹線約6,390m、支線1,820m)
- 幅 幹線 約64m~約91m、支線 約36m
- 水深 約3m(NP-2.6m)
- 閘門 中川口閘門、松重閘門(廃止)
- 運河付属地 物揚場約9m、倉庫約27m、道路敷約15m
- 舟だまり 1カ所 堀止舟だまり 約273m×約91m
- 橋梁 幹線12橋、支線5橋

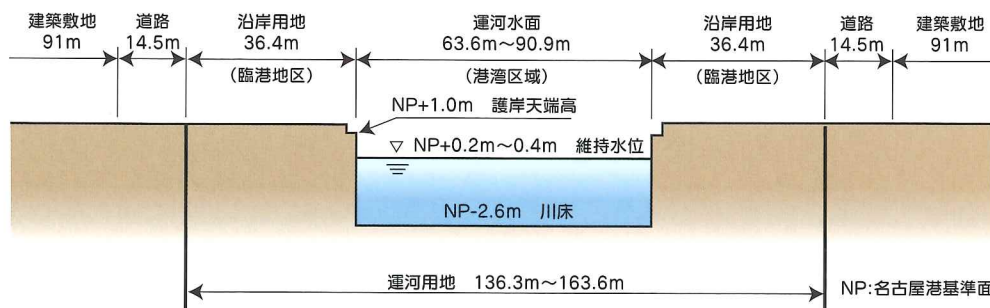


閘門の仕組み

- ①名古屋港と中川口閘門の水位を同じにして、閘門を開けます
- ②船が入ります
- ③閘門を閉めます
- ④閘門内の水位を下げ運河の水位と同じにします
- ⑤閘門を開けます
- ⑥船が出ます
- ⑦閘門を閉めます



標準断面図



中川運河の現状

中川運河には魅力が一杯



安らぎを与える広がりと穏やかな水面



護岸と水面の高低差が少ないのも魅力



ボラが跳ね、コノシロが泳ぐ、それらを狙う鳥たち



市民スポーツ祭 ポート大会 : 8月の第一日曜日
名古屋レガッタ : 10月の第一土・日曜日
中川運河ロングレース : 3月の第三土曜日

穏やかな水面、直線的にのびる運河はポート競技に好条件



昭和初期の遺産 松重開門塔屋 (名古屋市指定有形文化財)



中川口地区港湾環境整備事業による水辺の再生

しかし……



陸域から流入する汚水



スクリーユによってガスと共に舞い上がるヘドロ



水・底質の悪化により頻発する酸欠の被害



投げ捨てられたゴミ



水際まで立ち並ぶ倉庫群 一般市民は水辺に近づけない



護岸も古くなり、改修が必要となりはじめている

活動状況

- 2004年 (平成16年) 中川運河現況調査(伊勢湾フォーラム社員)
- 2005年 (平成17年) 中川運河親子見学会開催(名古屋市中川生涯学習センターと協働)
中川運河開通75周年記念シンポジウム開催
- 2006年 (平成18年) 中川運河再発見〈親子クルージング〉開催(国交省と協働)
中川運河再生フォーラム開催(主催 中川運河の再生を考える会)
水質調査体験ツアー(なごや環境大学共育講座)
中川運河水質調査隊(まるはちの日事業を共催)
名古屋市立露橋小学校の総合学習(講師派遣)
- 2007年 (平成19年) 第1回中川運河フォトコンテスト作品展開催
中川運河水質調査・船上体験ツアー開催
中川運河水質調査隊(まるはちの日事業を共催)
名古屋市立露橋小学校の総合学習(講師派遣)
中川運河ヨット帆走見学会開催
第2回中川運河フォトコンテスト作品展開催
- 2008年 (平成20年) 中川運河沿川企業用地内に植樹



中川運河フォトコンテスト展示会



中川運河ヨット帆走見学会



名古屋市立露橋小学校・総合学習



中川運河水質調査・船上体験ツアー



中川運河沿川企業用地内植樹

中川運河の活用・再生の提案

水・底質の改善

- 中川運河周辺の下水道システムは合流式であるが故に、降雨時には下水処理場の処理能力を超過した未処理の下水が雨水と共に直接中川運河に放流されることが頻繁に起きています。このことが運河の水質・底質の悪化の原因の一つとなっています。これを改善するため名古屋市では「雨水貯留施設」を建設し、一時的に未処理下水を貯めて、雨がやんだ後に下水処理場で処理して放流する等、合流式下水道の改善が進められており、これの一日も早い実現が望まれます。
- 水・底質の改善に寄与する良質な水源の確保を図る必要があります。

街並の再編と水辺の活用

- 物の輸送路から人の輸送路に変われば、人が集まりレクリエーション施設や、憩いの場が創出できます。
- 一般市民が水辺に近づきたいとの要請を踏まえ、運河に沿った遊歩道の整備を図る必要があります。
- 堀川、中川運河沿線には歴史的遺産、文化的遺産が多く散在します。松重閘門の復活を図り、これらを巡る観光船の就航が望まれます。
- 中川運河が歴史的に果たしてきた意義などを十分に理解し、昭和初期の遺産の保存も図りつつ新たな活用策を考える必要があります。
- 水面と護岸との高低差が少ない特色があります。この特色を生かした水辺づくりを図る必要があります。
- 水と陸との接点のハードルを低くすることが親水性を一層具体化します。運河への落下者を救出するはしご・バー・浮き輪などによる安全対策も考慮する必要があります。
- 市民が集う町並みにするには、土地利用の規制緩和を図る必要があります。
- デザインや色彩の統一など景観に配慮したまちづくりを図る必要があります。
- 運河周辺の緑化を図る必要があります。
- 都会に位置し、直線的な運河形状、穏やかな水面、安定した水深がボート競技に好条件です。従来から1000mコースでのレースは行われてきましたが、2000mの国際レガッタコースの認定を得るための条件整備が求められています。このコース整備の条件として、東海橋と昭和橋の間に架かる水道橋の橋脚撤去を図る必要があります。
国際レースを誘致し、国内外のアスリートが行き交う新たなまちづくりの期待が持てます。
- まちづくりにあたっては、公共投資に加え民間投資を促すことも重要です。

市民へのPRと協力

- 国、自治体のご理解と共に、市民の盛り上がりを図る必要があります。
- 市民の盛り上がりをつくるには、大人に加え次世代を担う子供達に関心を持つような教育と環境を結びつける活動を進める必要があります。（例 中学生の総合教育の時間にカヌー体験、なごや環境大学で親子の環境体験）
- 閘門の仕組み、面白さ、人間のすばらしい知恵を子供達にも見せることも効果的です。
- 様々なイベントを効果的に実施し、市民の理解と参加を得る努力をする必要があります。

総合計画・実施計画の策定

- 上記を踏まえたマスタープランを策定する必要があります。
- その上で実現可能な当面の実施計画を策定・実施し、そのことをローリングしながらマスタープランの実現を図る手法をとることが求められます。
- 計画や実施の進捗状況等の情報を常に発信し市民の理解と協力を得ることが重要です。

中川運河再生のイメージ



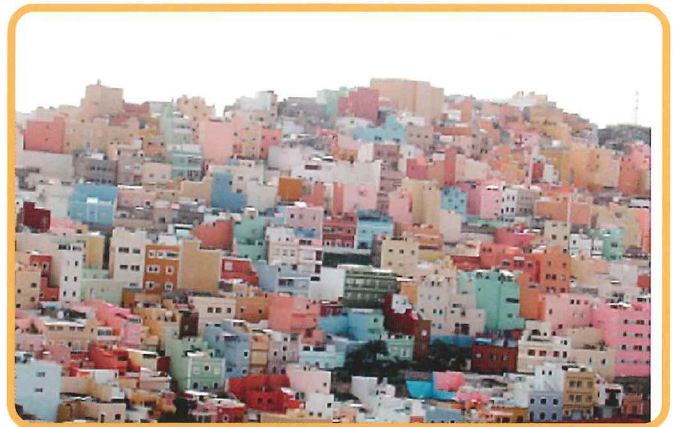
● 周辺の古い商館の景観を引き立たせる観光水路（ベルギー）



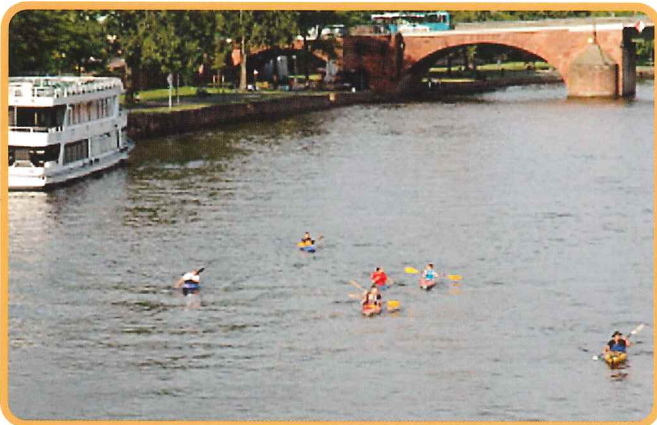
● 運河を巡る観光船（東京・隅田川）



● 緑の多い空間（テキサス・サンアントニオ）



● 多様性の中の統一（カナリア諸島・ラスパルマス）



● 都市の中の水面、夕暮れに家族でカヌーを楽しむ（フランクフルト・メイン川）



● 恋人達が集う水辺（パリ・サンマルタン運河）

（海外の事例写真は、日本港湾協会理事長 栢原 英郎氏の講演資料を引用）

市民が集う中川運河を目指して！

ご質問ご意見は下記へお寄せください



Isewan Forum

NPO法人
伊勢湾フォーラム

<http://www.isewanforum.org/>

〒460-0003

名古屋市中区錦三丁目2番1号（信愛ビル中2階）

TEL&FAX 052-951-4882

E-mail i-f.jimukyoku@isewanforum.org